



及川 義雄さん(78)
春子さん(72)

中田町・館
1962(昭和37)年3月入籍

笑って、怒って、本音でかだつて

★結婚当時の思い出は
【春子】 館行政区に叔母さんが嫁いでいてね。んで、叔母さんの話がお見合いの話がきたのっしや。最初見だどきはおっかねがったねえ。
【義雄】 前に勤めでいだブロッタ会社の自動三輪車借りで、お見合いさ行ったんだ。ば。そうそうねえことだが、気合い入れたんだねえ。
【2人】 何回も会うのおしよすいながら、1回で結婚決めたのっしや。
★印象深い出来事は
【2人】 結婚前に土建業を始め、2人で一生懸命頑張ったのっしや。
【春子】 プルドーザーやダンブ、何でも運転したのっしや。
★現在の楽しみは
【義雄】 お神楽だねえ。20年ぐれえ前から始めだんだん、本当におもせでば。宝江小の子もたちさ教えんのも楽しみなんだ。
【春子】 本読むのが好きだね。あど、テレビ番組の方言川柳さ投稿すつこと。何回か紹介さいだんだよ。
★夫婦円満のコツは
【2人】 いっつも笑ってばりいらいねがら、たまには本音で言い合うこと。

One's Home

ふるさとへの思い

Monthly Hot Communication

おらほのことば・方言

方言は、おらほの人たちにとつて、心が通い合う懐かしい言葉だ。
しかし、標準語による教育の普及などにより、社会の片隅に追いやられていくようにも見える。それは、方言を口にする「ずーずー」だの「在郷太郎」だのとさげすまされかねない。若い年代が感心を持たなくなるのも当然。いまや方言は、古臭い過去の言葉として、消え去る運命を背負っているともいえよう。
「ふるさとの訛なつかし停車場の人ごみの中にそを聴きにゆく」

今野 正實さん(80)

登米市在京町人会連絡協議会役員
東京とよま会幹事
登米町(宿小川)出身



石川啄木のこの詩は、古里を遠く離れて暮らす人や、老いを重ねる人たちの望郷の思いを募り、胸を深く打つ。
方言には多くの魅力が秘められている。「徒然だ」「たるひ(垂水)」など、優雅な趣があるもの、「痛ますいごだあ」「もぞこい」「そでござりすう」などと、相手に対する優しさや丁寧さがにじむもの。「けえちやまぐれ」「ひてこび」「おだづもつこ」など、ユーモアのある言い回しもある。さらに「コメをうるがす」のりでねつばす「目がいずい」など、その地ならではの表現もある。語尾に「こ」や「ちや」とつける「馬っこ」「ほだべつちや」などは、愛らしさが伝わる。
また、話し方やイントネーションの変化で、微妙なニュアンスも生まれ、「味わうほどにくめど尽させぬ」魅力が隠されている。
方言は、その地方の歴史や暮らしに根ざした言語であり文化でもある。地方の時代と言われる今こそ、おらほの方言を見直し、そのよさを再認識したい。すでにまちおこしの一つとして、方言の収集や研究に取り組んでいるところも聴く。実に頼もしい限りである。
おらほの方言を、胸張ってみんなで語り合う日を待ちたい。

おらほの産直

農産物直売所「産直なかだ愛菜館」



新鮮な野菜と加工品が豊富

今月は、農産物直売所「産直なかだ愛菜館」の上野義則さんにお話を伺いました。
Q「愛菜館」の特徴などについて教えてください
平成15年にオープン、以来中田町内だけではなく、多くの皆さんにご愛顧いただいています。



愛菜館の売りであるキュウリをPRする上野さん

農産物は、旬のものを数多くそろえています。この売りは「キュウリ」です。登米市は県内トップの生産量を誇り、それを支えているのが中田の農家の皆さんです。1、2月以外は、常に店頭で並んでいるので、もぎたての新鮮な味を楽しんでください。
Q「キュウリ以外のお勧めのもの」を教えてください
野菜以外では、餅やパンなどの加工品が人気です。特に餅は、あんこやぜん



だ、エビ、納豆など、味の種類が豊富です。ぜひご賞味ください。
愛菜館では、年6回イベントを開催しています。5月は3～5日まで、ウサギとヤギの動物ふれあい体験や餅、どん、米粉ピザの無料配布をします。皆さんぜひお越しください。
また、ホームページで随時情報更新しているので「登米市 愛菜館」で検索してご覧ください。
【問い合わせ】農産物直売所「産直なかだ愛菜館」
☎0220(35)3050

俳句・川柳
まちの文芸

作品募集!
6月号は短歌です。住所・氏名・電話番号を記入し、4月28日(木)まで応募ください。作品には全てふりがなを振ってください。応募者多数の場合選考して掲載します。

川柳
古い忘れ送る月日を詩に詠む
ケータイを持たぬ幸へそ曲り
俳句
庭木々に轉る鳥や空広し
室咲きやアンパンマンと眠る稚児
羚羊の足跡薄く残る雪
若僧の喝の一声寒返る

伊藤 信子 (迫)
武山 松生 (津山)
千葉 泰子 (迫)
小平 華子 (東和)
千葉 勝保 (東和)
及川 裕子 (東和)

風光る袴姿の孫眩し
復興の移住の窓の春灯かな
轉りに目覚めり朝の心地よさ
轉りや人影もなき能楽堂
大往生とげて静かや春の雪
迫川激みに遊ぶ群氷
土擡げ関の声あぐ落の臺
老いの趣味小鉢ならべて春を待つ

村上きみえ (東和)
酒井みつ子 (中田)
千葉 信子 (中田)
山内 雅子 (中田)
五十嵐進太夫 (中田)
及川 廻 (中田)
佐々木信一 (中田)
佐藤やす子 (中田)

応募総数 29 作品